

新型コロナウイルス感染症拡大の影響下 文化活動の灯を絶やさない迅速な施策を

一般社団法人 関西経済同友会 公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

関西経済同友会と関西・大阪21世紀協会は、今年4月16日、政府および文化庁に対し、コロナ禍において文化芸術関係者への一層の支援強化を求める提言・アピールを行いました。「令和」に込められた「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」意味を、

今こそ国民のみんなが想起し、文化芸術の灯が消えないよう力を尽くしていかなければならないと考えます。

提言・アピールは、当協会ホームページに掲載しています。

<https://www.osaka21.or.jp>

イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発展と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。その中から、2020年1～7月に実施された事業のいくつかをご報告いたします。

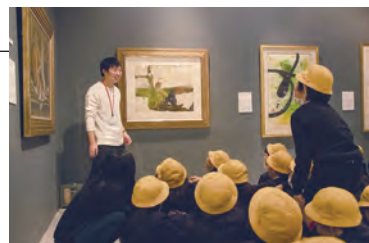
第2回「なにわの企業が集めた絵画の物語」展

2020年1月24日～2月15日／大阪府立江之子島文化芸術創造センター

主催：関西経済同友会 企業所有美術品展実行委員会

協力：京都造形芸術大学 運営協力：関西・大阪21世紀協会

マネやロートレック、藤田嗣治など、関西の企業が所有する普段非公開の絵画43点を一般に公開するとともに、次世代を担う小学生を対象に、作品との対話を通して独創性や思考力を養う対話型鑑賞プログラムを開催。メディアにも数多く取り上げられ、会場は多くの来場者で賑わいました。



対話型鑑賞プログラム

深く学べる“21ワンモアカフェ”

2020年1月27日、2月17日／関西・大阪21世紀協会会議室

講師：岩佐倫太郎氏 主催：関西・大阪21世紀協会

大阪中之島美術館の開館を控え、広く美術への関心を促すことを目的に開催。西洋印象派は日本の浮世絵の影響で生まれゴッホにつながったことや、浮世絵の「多視点」の手法がルネサンス以来の遠近法を破壊し、近代絵画を成立させたことなどが紹介されました。



講義風景

堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2020年2月3日／堂島・北新地一帯

主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

地元で古くから続く「節分祭り」と2004年に復活した「お水汲み」を一つにした祭り。薬師寺管主等による節分法要や参拝者の無病息災・商売繁盛を祈願する「お水汲み」が行われ、隣接する堂島アバンザ会場では、薬師寺僧侶による声明、北新地クイーンや飲食店員等による「お化け(仮装)」などが披露されました。当協会の堀井良股理事長(当時)が共同実行委員長を務めました。



堂島薬師堂でのお水汲み

「令和 OSAKA 天の川伝説」疫病退散祈願祭

2020年7月7日／八軒家浜・川の駅はちけんや前

主催：おしてるなにわ ～OSAKA天の川伝説～

協力：関西・大阪21世紀協会

毎夏恒例の「令和 OSAKA 天の川伝説」が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止された代わりに、これまで生國魂神社と大阪天満宮が合同で行なってきた同イベントの安全祈願祭を「疫病退散祈願祭」として実施。コロナ禍の終息と来夏のイベント開催を祈願しました。



疫病退散祈願祭

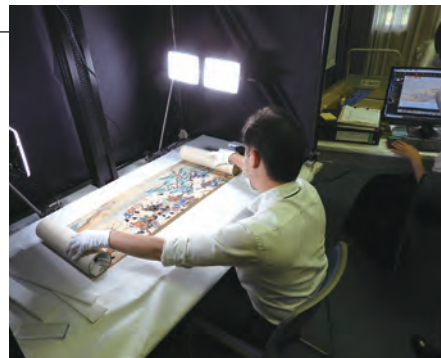
「八十島祭絵詞」デジタル・アーカイブ制作

2020年6～7月／大阪城天守閣ほか

事業主体：関西・大阪21世紀協会 [日本博(文化庁補助金交付事業)]

協力：凸版印刷株式会社

平安時代前期(850年)から鎌倉時代前期(1224年)まで、新天皇の即位儀礼の一つとして斎行されていた記録が残る「八十島祭」。平安京の清涼殿(京都)から難波津(大阪)に遣わされた女官が、大海原の霊力を御衣(天皇の着衣)に付着させるなどして、国の繁栄と安寧を祈ったとされる祭祀です。昭和天皇の大嘗祭の翌年(昭和4年)に制作された「八十島祭絵詞」は、祭祀にかかわる一部始終が描かれた全3巻・54mにもおよぶ長大な絵巻物。長らく豊國神社に保管されていましたが、このたび、それをすべてデジタル画像として収録しました。今秋開催の「改元記念シンポジウム」で公開される予定で、全巻通して見られるのは約90年ぶりとなります。



「八十島祭絵詞」収録風景(7月7日・大阪城天守閣にて)